



株式会社 **ニコン**
広報・IR部

2014年3月期 第2四半期 決算説明会

2013年11月7日
株式会社ニコン

※本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスク及び不確実性が含まれます。従いまして、様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく乖離する結果となる可能性があることをご承知おきください。

Agenda

- I . 2014年3月期 上期の概況**
- II . 2014年3月期の見通し
- III . 参考データ

- ◆ 前上期比 268億円減収、152億円営業減益。精機と映像の営業利益が上振れて、会社全体の各利益は前回予想を上回った

【精機】

- ・前上期比、液晶露光装置は増加したが、半導体用ではArF液浸スキャナーの販売台数が減少。6億円減収、35億円減益

【映像】

- ・前上期比、カメラ市況悪化による市場縮小に伴い、各製品群の販売台数が減少。285億円減収、109億円減益

【インストルメンツ】

- ・前上期比、バイオサイエンス分野は公共予算増加で増収だったが、産業機器分野は主に国内・アジアの設備投資減少により減収。カンパニーとしては 前上期比 23億円増収、赤字幅若干拡大

- ◆ 中間配当金は 10円

2014年3月期 上期 連結売上高・損益

単位: 億円	13年3月期 上期実績	前回予想 (8/8)	14年3月期 上期実績	前上期 実績比	前回 予想比
売上高	4,972	4,770	4,704	▲ 268	▲ 66
営業利益 売上高比	371 7.5%	145 3.0%	219 4.7%	▲ 152	+ 74
経常利益 売上高比	395 7.9%	125 2.6%	200 4.3%	▲ 195	+ 75
当期純利益 売上高比	320 6.4%	80 1.7%	136 2.9%	▲ 184	+ 56
FCF	▲ 6	—	391	+ 397	—
為替:ドル	79円	97円	99円	売上高への影響 +706 +51	
ユーロ	101円	127円	130円	営業利益への影響 +153 +7	

前回予想比、売上高は未達だが経費削減を進め各利益は上振れ

* スライドで使用している数値は億円未満は切り捨ててあります。

2014年3月期 第2四半期 連結売上高・損益

株式会社ニコン
広報・IR部



単位:億円	13年3月期 第2四半期実績	前回予想 (8/8)	14年3月期 第2四半期実績	前第2四半期 実績比	前回 予想比
売上高	2,378	2,381	2,315	▲ 63	▲ 66
営業利益 売上高比	138 5.8%	85 3.6%	159 6.9%	+ 21	+ 74
経常利益 売上高比	161 6.8%	74 3.1%	149 6.4%	▲ 12	+ 75
当期純利益 売上高比	163 6.9%	36 1.5%	92 4.0%	▲ 71	+ 56
為替:ドル	79円	95円	99円	売上高への影響 +350 +51	
ユーロ	98円	125円	131円	営業利益への影響 +69 +7	

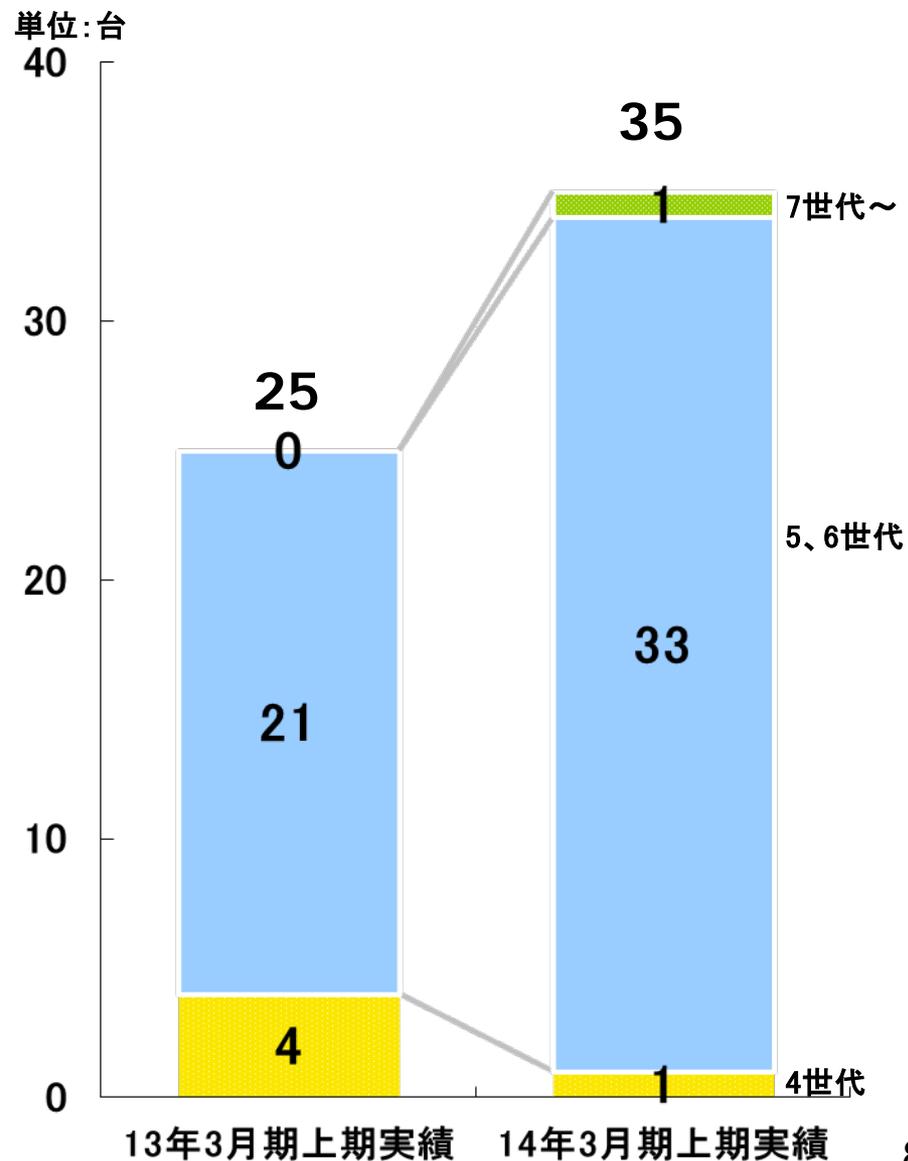
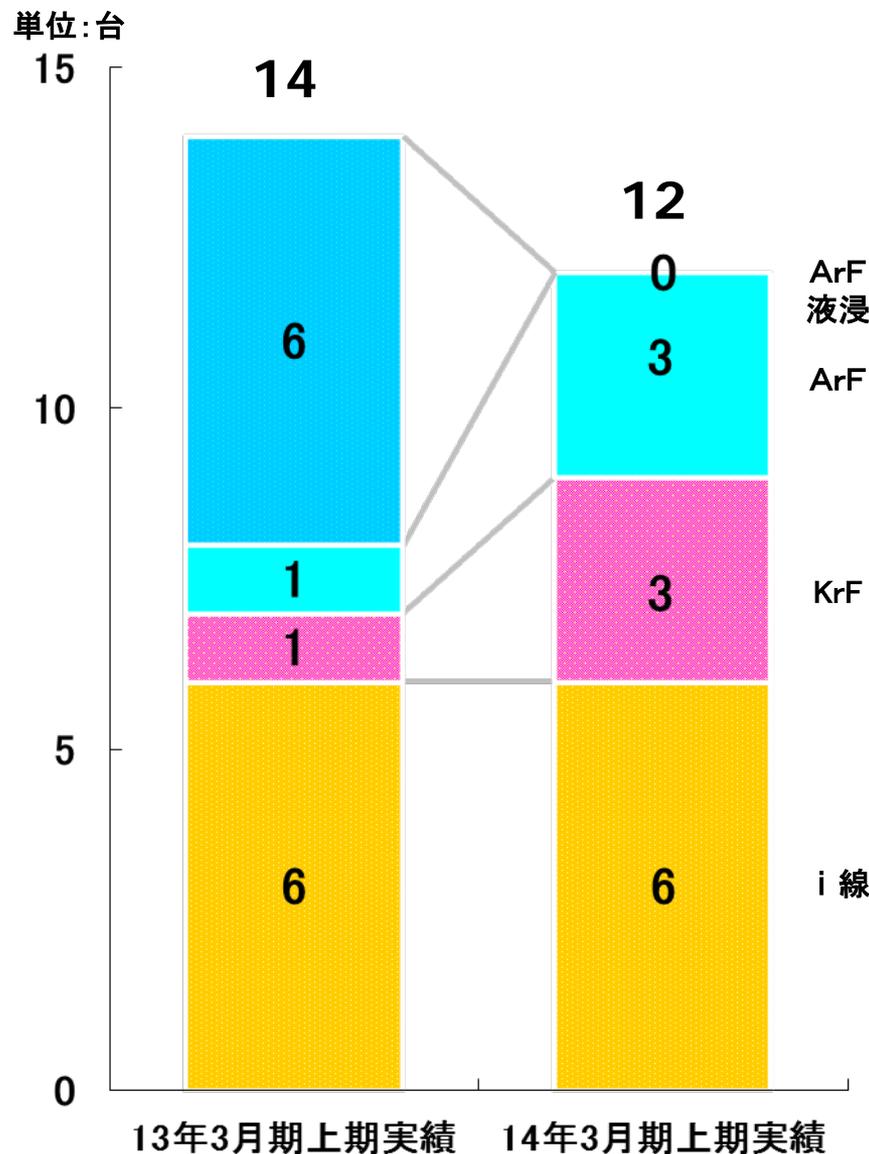
前2Q比、精機は増収・増益だが、映像はカメラ市況の悪化で減収・減益。
会社全体では減収となったが、営業利益は増加

2014年3月期 上期 精機カンパニー

単位:億円	13年3月期 上期実績	前回予想 (8/8)	14年3月期 上期実績	前上期 実績比	前回 予想比
売上高	804	800	798	▲ 6	▲ 2
営業利益 売上高比	72 9.0%	0 —%	37 4.6%	▲ 35	+ 37
半導体露光装置 新品/中古	9/5台	10/7台	10/2台	+ 1/▲ 3台	±0/▲ 5台
液晶露光装置	25台	33台	35台	+ 10台	+ 2台

前回予想比では、液晶露光装置の販売台数増加と経費削減などにより、営業利益は上振れ

半導体露光装置光源別販売台数(中古含む) 液晶露光装置世代別販売台数



2014年3月期 上期 映像カンパニー

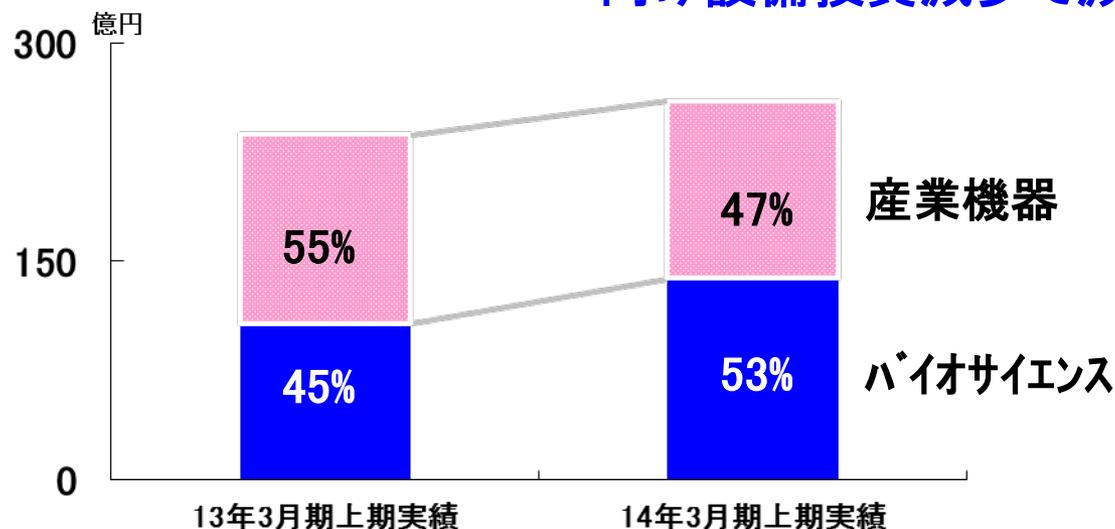
単位: 億円	13年3月期 上期実績	前回予想 (8/8)	14年3月期 上期実績	前上期 実績比	前回 予想比
売上高	3,810	3,600	3,525	▲ 285	▲ 75
営業利益 売上高比	418 11.0%	285 7.9%	309 8.8%	▲ 109	+ 24
レンズ交換式 デジタルカメラ	345万台	300万台	298万台	▲ 47万台	▲ 2万台
交換レンズ	477万本	420万本	420万本	▲ 57万本	± 0万本
コンパクト デジタルカメラ	826万台	560万台	580万台	▲ 246万台	+ 20万台

前上期比は、市場の縮小に伴い各製品群の販売台数が減少。前回予想比では、エントリークラス一眼レフの販売価格が想定を下回ったため売上高は未達だが、広告宣伝費などを削減した結果、営業利益は上振れ

2014年3月期 上期 インストルメンツカンパニー

単位: 億円	13年3月期 上期実績	前回予想 (8/8)	14年3月期 上期実績	前上期 実績比	前回 予想比
売上高	237	270	260	+ 23	▲ 10
営業利益 売上高比	▲ 29 —%	▲ 25 —%	▲ 34 —%	▲ 5	▲ 9

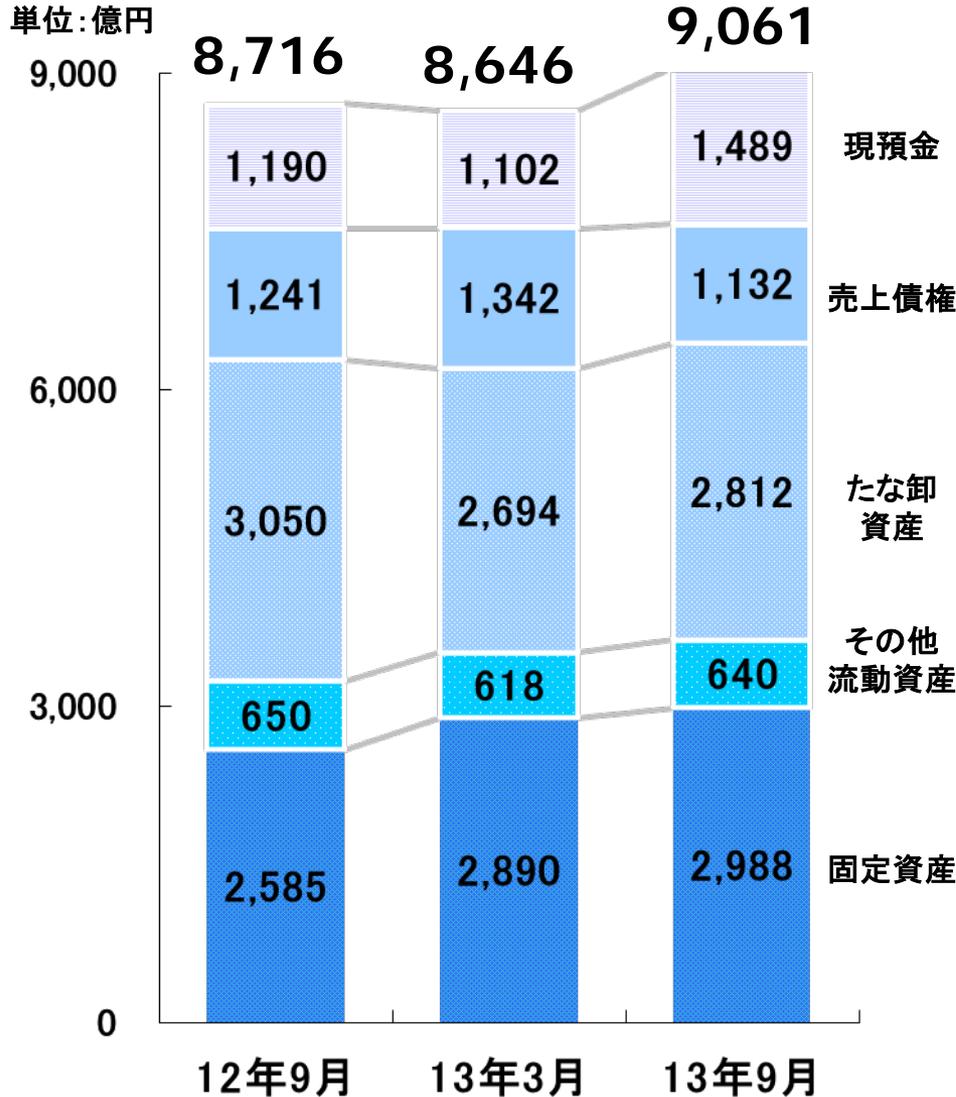
前上期比、バイオサイエンス分野は米国などの公共
予算増加で増収、産業機器分野は半導体・電子部品
向け設備投資減少で減収。カンパニーでは増収



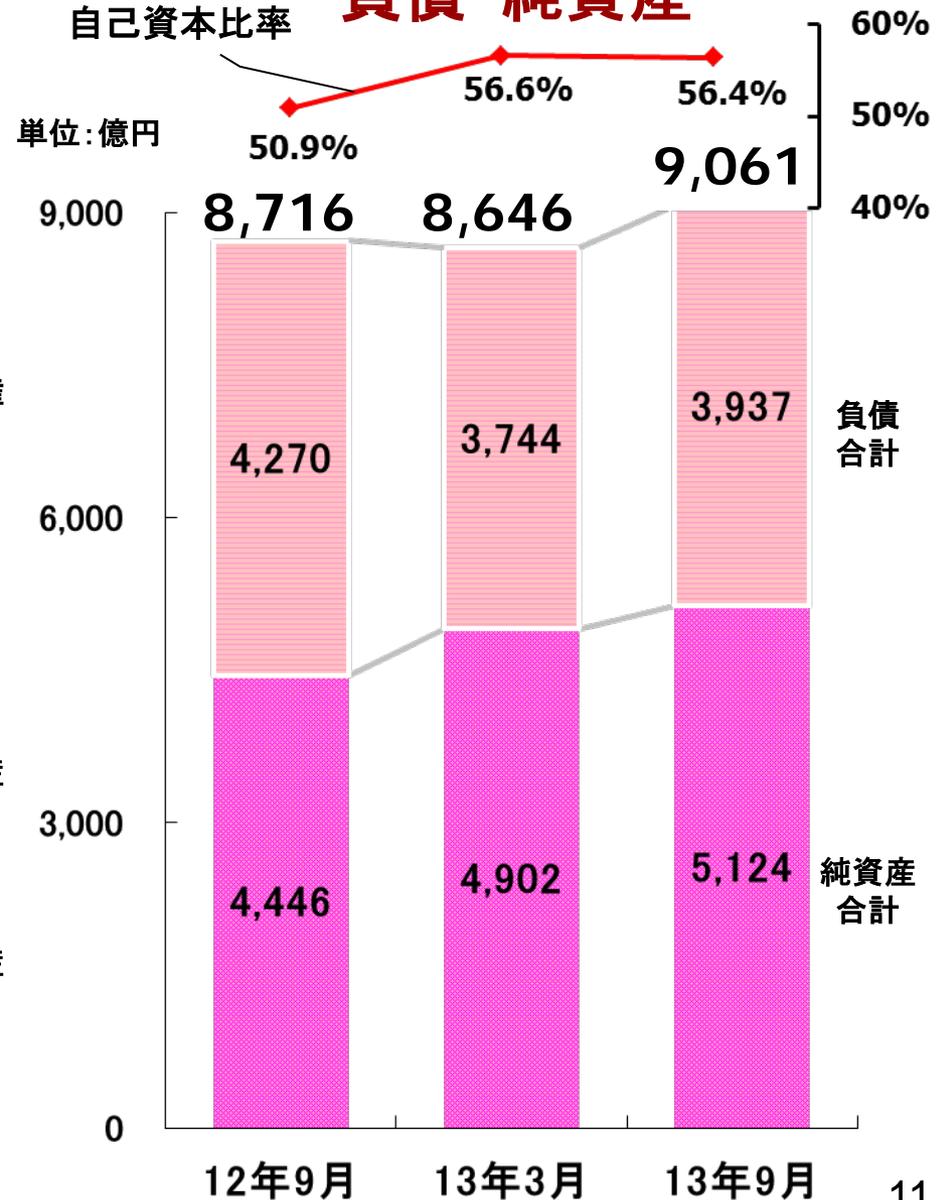
2014年3月期 上期 B/S内訳



資産

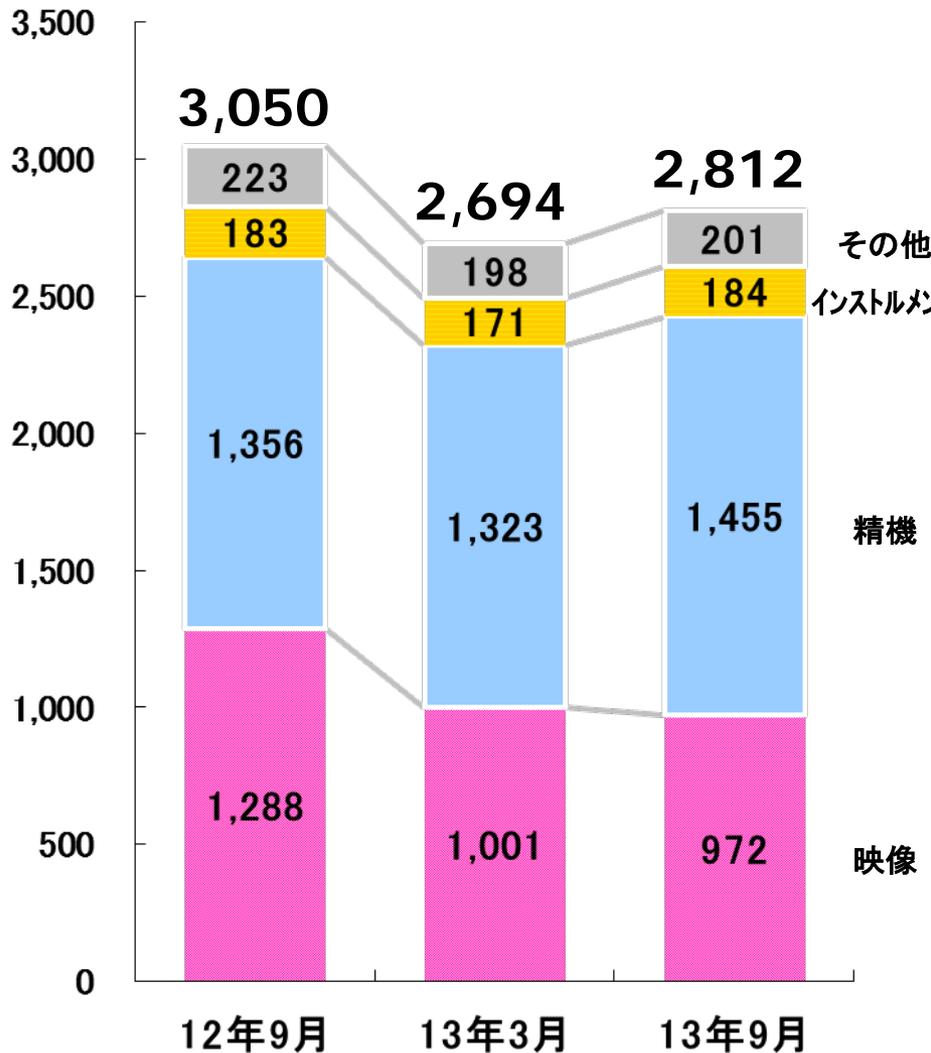


負債・純資産



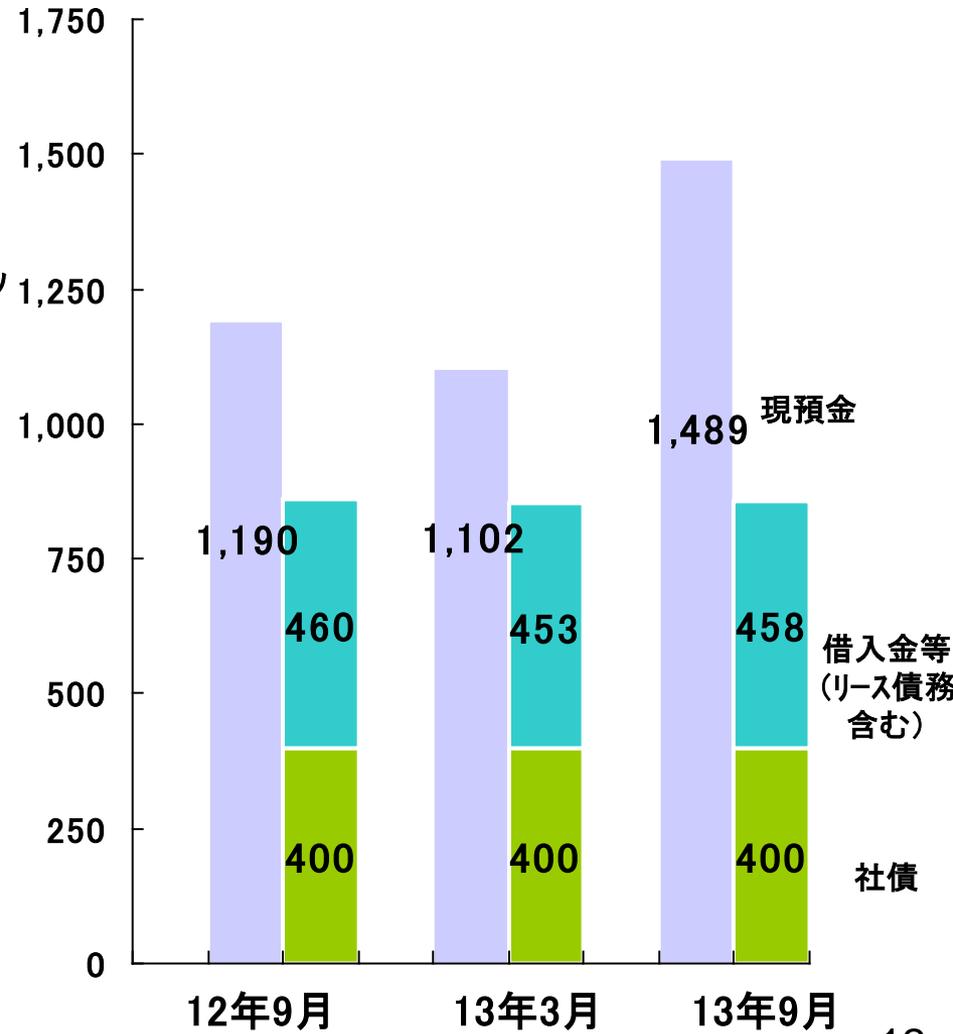
棚卸資産

単位:億円



現預金・有利子負債

単位:億円



Agenda

- I. 2014年3月期 上期の概況
- II. 2014年3月期の見通し**
- III. 参考データ

2014年3月期 見通しポイント

- ◆ 会社全体では、通期の売上高を 250億円下方修正するが、各利益は前回予想を据え置く

【精機】

液晶露光装置の増加と経費削減により、売上高を 50億円、営業利益を 30億円上方修正する

【映像】

カメラ市況は従来予想を下回る。市場規模を見直し、売上高を300億円、営業利益を 60億円下方修正する

【インストルメンツ】

上期の未達は産業機器分野。下期の見通しはほぼ据え置くが、通期では売上高を 10億円、営業利益を 5億円下方修正する

- ◆ 年間配当金 32円の予定は据え置く

◆ 2014年3月期中の、200億円のコスト削減※は予定どおり進捗しており、達成可能な見通し

- ・主な削減対象は、調達コスト、広告宣伝費、物流費など
- ・生産および研究開発の効率化も推進

※:映像事業で前年比 100億円のコストダウンを、期初の業績予想に織り込んだ。8月には、今期の営業利益見通し 650億円を確実にするため、会社全体で 100億円の経費削減を目標に加えた

◆ 更に、会社全体で「ミニマムコストオペレーション」を追求して経営体質の強化を図り、来期以降につなげる

2014年3月期 見通し 連結売上高・損益

単位：億円	13年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (8/8)	上期 下期	14年3月期 見通し	上期 下期	前年 実績比	前回 予想比	上期 下期
売上高	10,104	$\frac{4,972}{5,132}$	10,400	$\frac{4,770}{5,630}$	10,150	$\frac{4,704}{5,446}$	+46	▲ 250	$\frac{\triangle 66}{\triangle 184}$
営業利益	510	$\frac{371}{139}$	650	$\frac{145}{505}$	650	$\frac{219}{431}$	+140	±0	$\frac{+ 74}{\triangle 74}$
売上高比	5.0%		6.3%		6.4%				
経常利益	483	$\frac{395}{88}$	630	$\frac{125}{505}$	630	$\frac{200}{430}$	+147	±0	$\frac{+ 75}{\triangle 75}$
売上高比	4.8%		6.1%		6.2%				
当期純利益	424	$\frac{320}{104}$	500	$\frac{80}{420}$	500	$\frac{136}{364}$	+76	±0	$\frac{+ 56}{\triangle 56}$
売上高比	4.2%		4.8%		4.9%				
FCF	▲132		400		400		+532	±0	—
為替 ドル	83円	$\frac{79円}{87円}$		96円	97円	$\frac{99円}{95円}$			
ユーロ	107円	$\frac{101円}{114円}$		126円	127円	$\frac{130円}{125円}$			

カメラ市況が従来予想を下回る見通しのため会社全体の売上高を下方修正するが、精機の上方修正と会社全体でのコスト削減により、利益見通しは据え置く

2014年3月期 見通し 精機カンパニー

単位: 億円	13年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (8/8)	上期 下期	14年3月期 見通し	上期 下期
売上高	1,790	$\frac{804}{986}$	2,100	$\frac{800}{1,300}$	2,150	$\frac{798}{1,352}$
営業利益 売上高比	130 7.3%	$\frac{72}{58}$	160 7.6%	$\frac{0}{160}$	190 8.8%	$\frac{37}{153}$
半導体露光装置 新品/中古	25/15台	$\frac{9/5}{16/10}$	37/15台	$\frac{10/7}{27/8}$	36/13台	$\frac{10/2}{26/11}$
液晶露光装置	43台	$\frac{25}{18}$	50台	$\frac{33}{17}$	55台	$\frac{35}{20}$
半導体露光装置 市場規模 CY12/13	222台		200台程度		200台程度	
液晶露光装置 市場規模 CY12/13	66台		80台程度		80台程度	

半導体露光装置は新品 1台・中古 2台を下方修正、液晶用は5台の上方修正。経費削減を進め、営業利益は 30億円上方修正する

2014年3月期 見通し 精機カンパニー

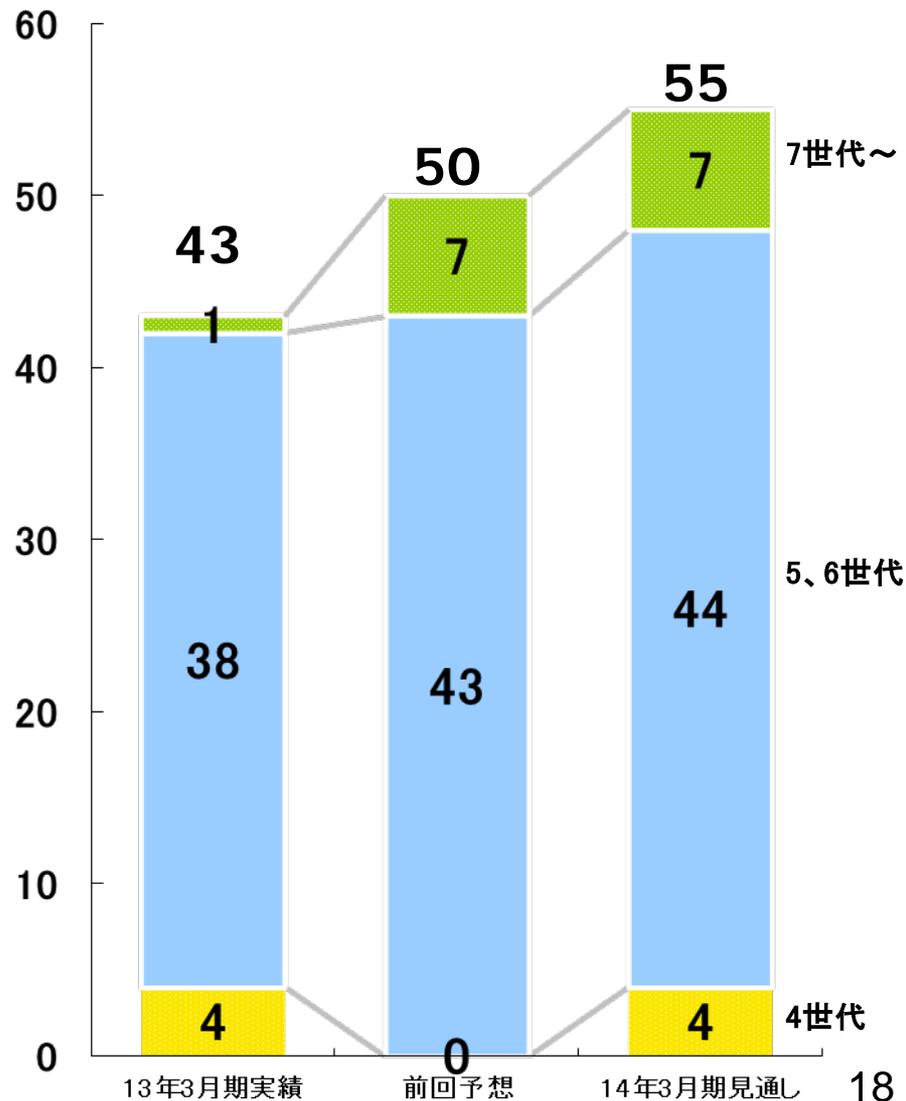


半導体露光装置光源別販売台数(中古含む) 液晶露光装置世代別販売台数

単位:台



単位:台



2014年3月期 見通し 映像カンパニー

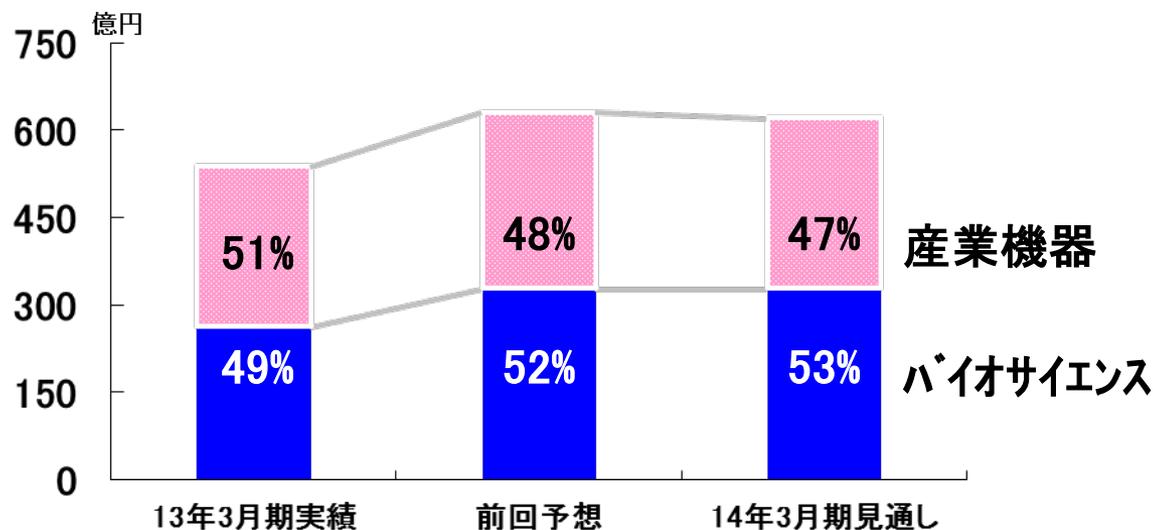
単位: 億円	13年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (8/8)	上期 下期	14年3月期 見通し	上期 下期
売上高	7,512	$\frac{3,810}{3,702}$	7,400	$\frac{3,600}{3,800}$	7,100	$\frac{3,525}{3,575}$
営業利益 売上高比	607 8.1%	$\frac{418}{189}$	740 10.0%	$\frac{285}{455}$	680 9.6%	$\frac{309}{371}$
レンズ交換式 デジタルカメラ	698万台	$\frac{345}{353}$	655万台	$\frac{300}{355}$	620万台	$\frac{298}{322}$
交換レンズ	971万本	$\frac{477}{494}$	905万本	$\frac{420}{485}$	860万本	$\frac{420}{440}$
コンパクト デジタルカメラ	1,714万台	$\frac{826}{888}$	1,150万台	$\frac{560}{590}$	1,150万台	$\frac{580}{570}$
レンズ交換式デジタル カメラ市場規模	1,923万台		1,950万台		1,870万台	
交換レンズ 市場規模	2,964万本		3,000万本		2,900万本	
コンパクトデジタル カメラ市場規模	6,808万台		5,000万台		4,700万台	

主に欧州・米州のカメラ市況が従来予想を下回る見通しとなり、下期の販売台数を下方修正。通期見通しは、売上高を 300億円、営業利益を 60億円下方修正

2014年3月期 見通し インストルメンツカンパニー

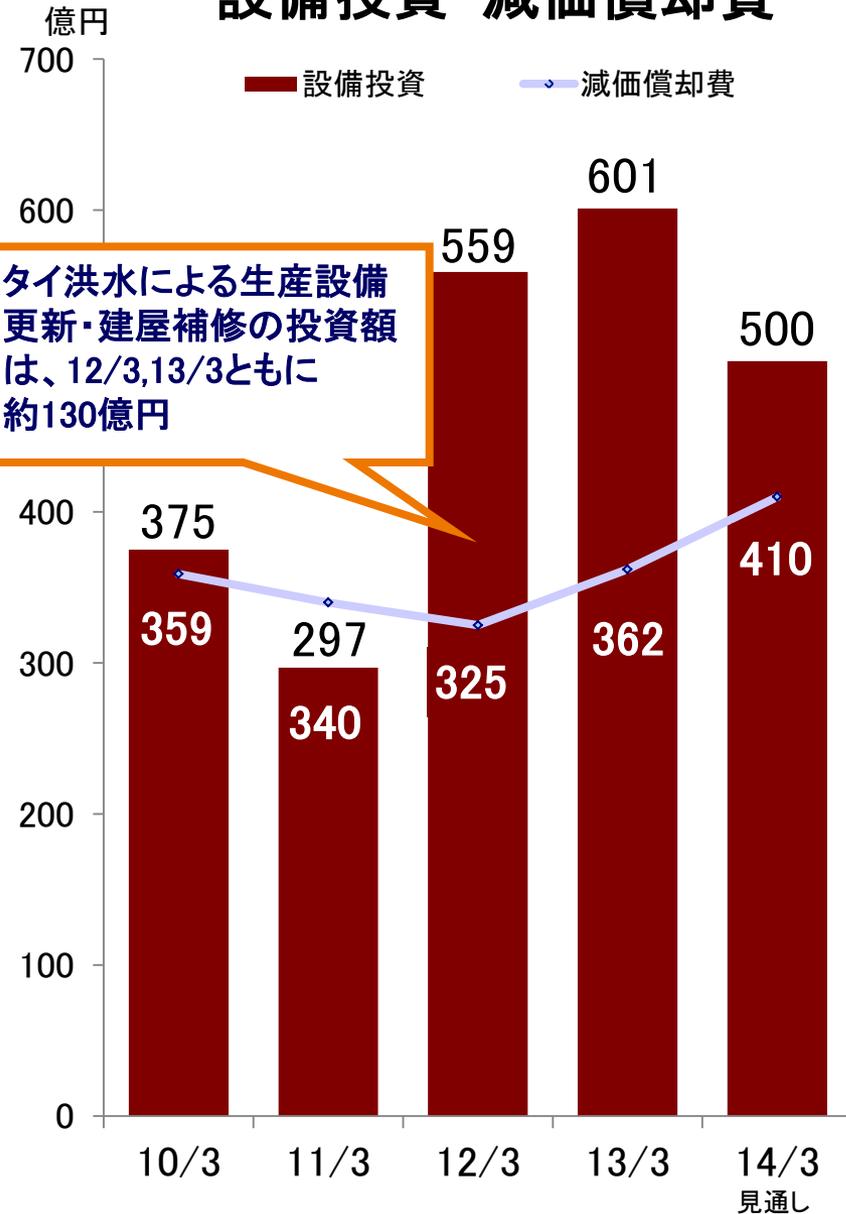
単位: 億円	13年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (8/8)	上期 下期	14年3月期 見通し	上期 下期
売上高	538	$\frac{237}{301}$	630	$\frac{270}{360}$	620	$\frac{260}{360}$
営業利益 売上高比	▲ 49 —%	$\frac{▲ 29}{▲ 20}$	▲ 15 —%	$\frac{▲ 25}{10}$	▲ 20 —%	$\frac{▲ 34}{14}$

下期は、売上高は据え置くが、経費削減を進め営業利益は増加させる計画

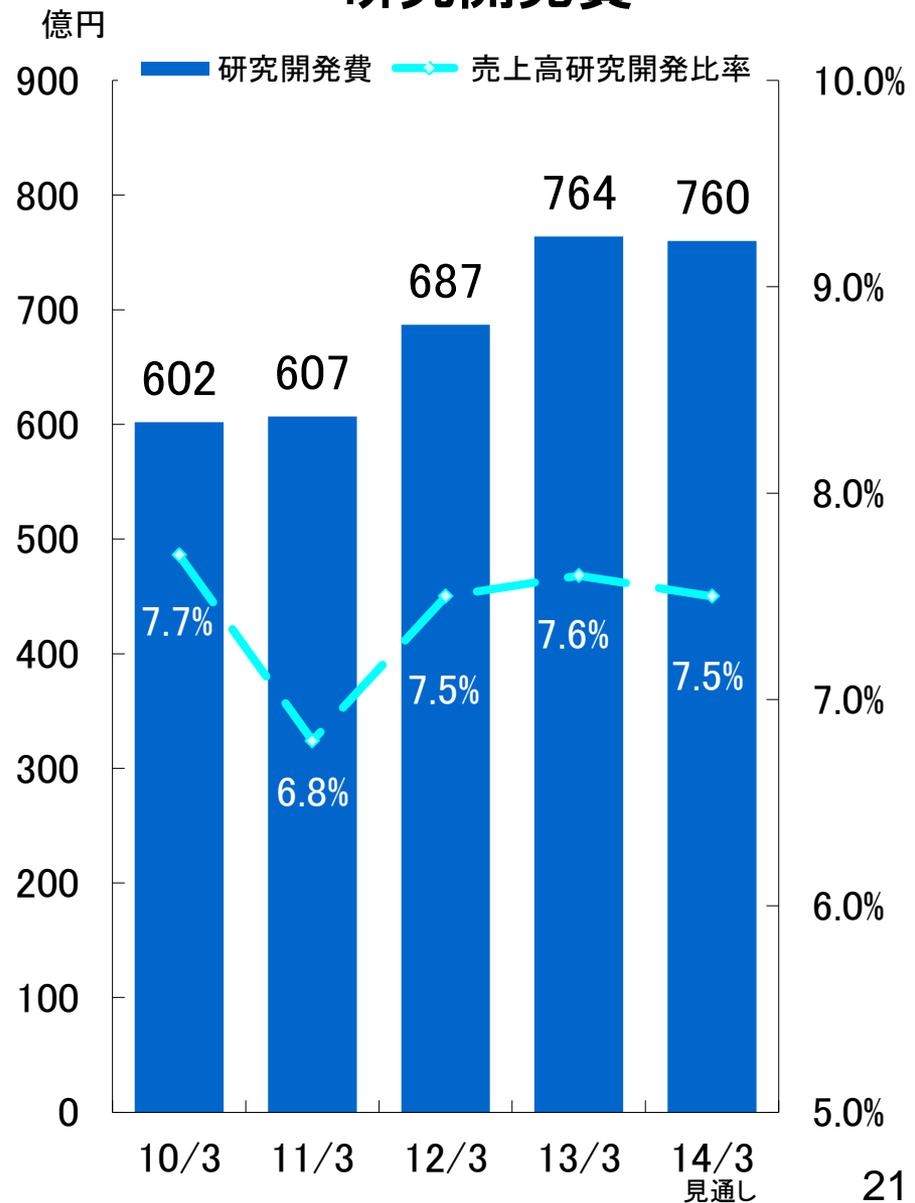




設備投資・減価償却費



研究開発費



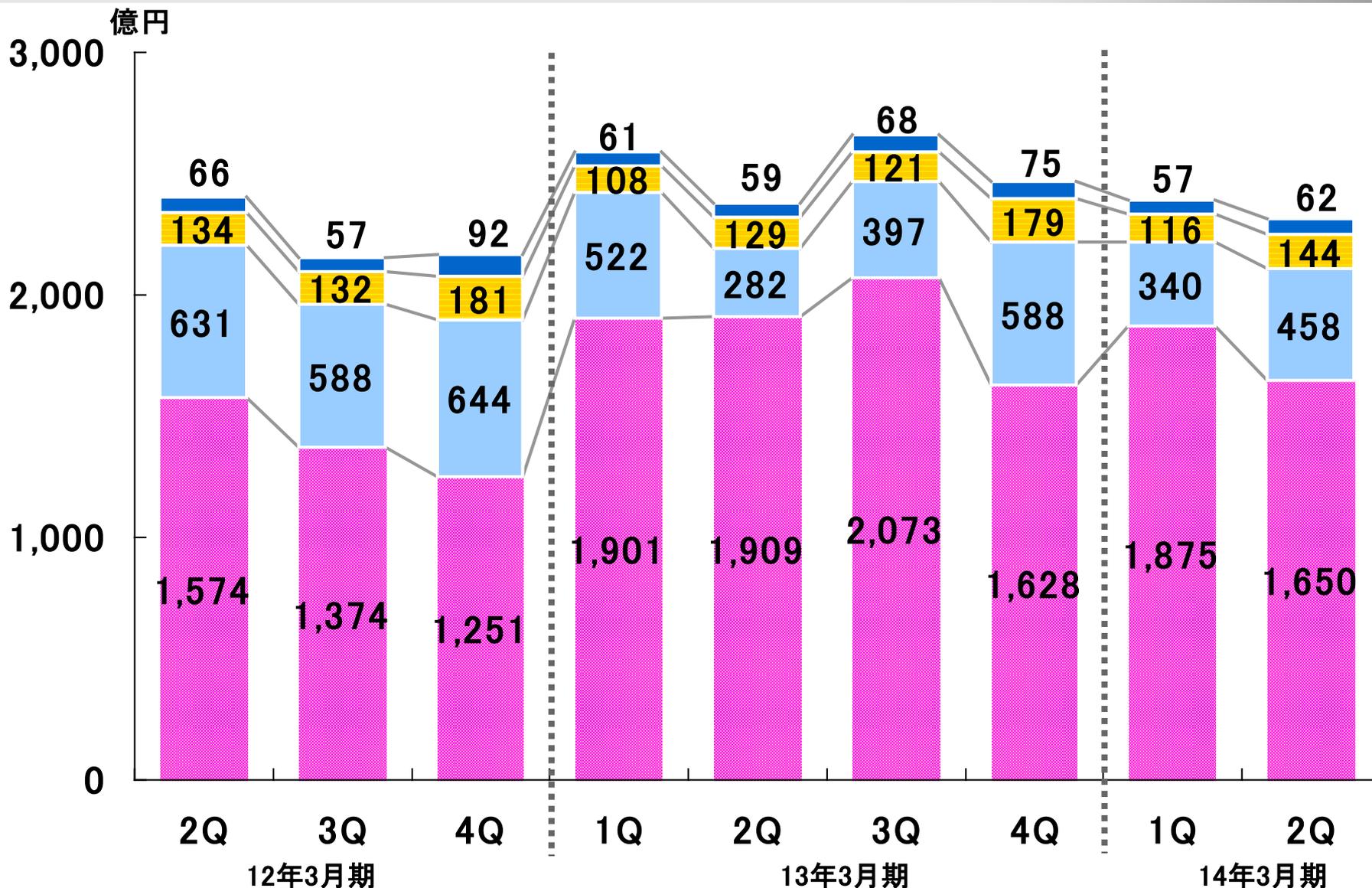
Agenda

- I. 2014年3月期 上期の概況
- II. 2014年3月期の見通し
- III. 参考データ**

2014年3月期 見通し

	為替レート	1円の変動による影響額	
	14年3月期 下期前提	売上高 下期	営業利益 下期
USDドル	95円	約 26億円	約 2億円
ユーロ	125円	約 11億円	約 6億円

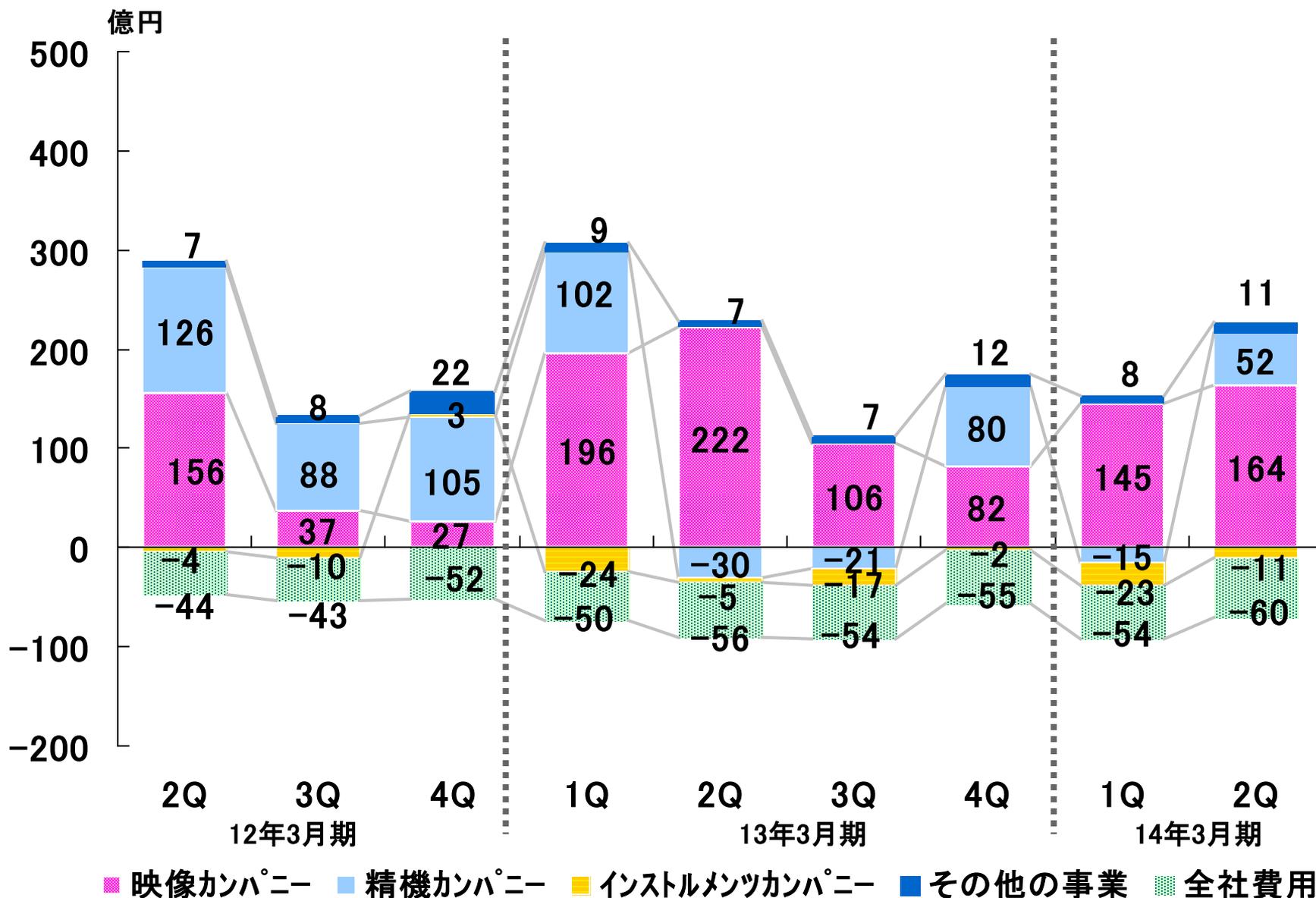
参考データ 四半期セグメント別売上高推移



■ 映像カンパニー ■ 精機カンパニー ■ インストルメンツカンパニー ■ その他の事業

* スライドで使用している数値は億円未満は切り捨ててあるため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。

参考データ 四半期セグメント別営業利益推移



* スライドで使用している数値は億円未満は切り捨ててあるため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。



NIKON CORPORATION